

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2590500035
法人名	社会福祉法人 日野友愛会
事業所名	沖野原グループホーム
訪問調査日	平成 20 年 2 月 27 日
評価確定日	平成 20 年 3 月 25 日
評価機関名	ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2590500035
法人名	社会福祉法人 日野友愛会
事業所名	沖野原グループホーム
所在地	滋賀県東近江市沖野三丁目10番18号 (電話) 0748-22-7555

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成20年2月27日	評価確定日	平成20年3月25日

【情報提供票より】(平成 20年 2月 13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・(平成) 18年 7月 10日
ユニット数	1 ユニット
職員数	6 人
利用定員数計	9 人
常勤	6 人, 非常勤 人, 常勤換算 6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	40,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	230 円	昼食	610 円
	夕食	610 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(2月 27日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	80 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人幸信会青葉メディカル ・ だいき歯科クリニック
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは床面積約1800㎡の木造平屋建内にデイサービス及びショートステイ施設と共に併設され、施設内行き来自由となっている広い空間と、整った設備の中9名の入居者が穏やかな生活を送っている。入居者の要介護度は全体的に低く、現時点では自立支援を考慮したケアに重点を置いている。経験豊富な常勤専任6名の職員が対応しており入居者には常日頃「心で接する」を旨としてケアに当たっている。地域との連携も近隣幼稚園や老人会、ふれあいサロンの会等との交流に力を入れ地域と共存して行く努力を払っている。医療支援面では提携医療機関の他、併設施設に在籍する看護師によるサポートも受けられる体制となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「運営理念」は施設内に掲示すると共に、職員の朝礼時唱和により共有、定着への努力もされている。なお施設パンフレットでグループホームのページには理念を記入することを望みたい。「なじみの食器の使用」については、入居者の意向も尊重し、個人ごとにお気に入りの湯のみを購入して日常使うことにより、新たななじみの食器作りに取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が作成した自己評価案をベースに職員ミーティングで討議、職員の意見を加味して自己評価表を完成している。今後とも日常ケアの実務に携わっている職員の意見を最大限取り入れた評価となるよう取り組んでほしい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は地域の自治会、民生委員、老人クラブ、幼稚園、地域包括支援センター職員等で構成され、隔月に実施し議事録もきちんと残されている。ホームから入居者の状況や活動内容の説明後、防災、地域交流等について討議がなされている。忌憚のない意見交換によって、より一層ホームの質の向上に取り組まれるよう期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情、不安の申し立て方法を家族に通知すると共に施設内には意見箱も設置して対応し、苦情、意見を運営改善に役立てている。家族の安心と信頼のため入居者の状況を記した家族への手紙、預かり金の出納状況を毎月報告している。なお「利用者、家族の権利」は文書化して提示することを望みたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	施設の農園の活用や、行事に地域住民が参加したり、「ふれあいサロンの会」との交流会を施設で開催する等地域との連携に力を入れている。又防災訓練を通して地元消防署とも緊密な連携を取っている。今後施設の持っている認知症ケアのノウハウを地域に還元することも考えているとの事、実現を期待したい。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	覚えやすく親しみの持てる理念となっている。ただ当施設は地域との交流に力を入れ活発な活動が行われているにもかかわらず理念の中に地域密着を謳った言葉はない。		地域との関係性強化を謳った例えば「地域社会と共に・・・」のような文言を出来れば追加することを検討してほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を施設内に掲示公表すると共に、朝礼時には職員が唱和する等共有、定着、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設の農園作業や、新春お楽しみ会等の行事には地域住民のほか幼稚園児も参加している。地域のお年寄りのホーム体験を実施したり、地元の「ふれあいサロン」との交流会に施設を提供して開催する等地域交流に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価のベースは管理者が作成しこれに職員の意見を取り入れて完成している。外部評価の意義は理解しており評価結果は職員に公表し会議等を通じて改善に生かしている。		管理者が自己評価のベースを作成する時点で職員の意見を最大限取り入れ、より職員参加度合いの高い自己評価とする事を望みたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は隔月に実施されている。ホーム側から利用者の状況や行事報告の後、運営に関する話し合いを持ち、意見や提案をサービス向上に取り入れている。出席者は自治会、老人クラブの代表、民生委員、地域包括支援センター職員、近隣幼稚園代表者とホーム幹部で構成している。		家族代表者も運営会議に参加してもらような働きかけも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターや市の職員とは適宜協議する機会を持つと共に必要に応じて相互に行き来するなど連絡は密に取っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>担当職員による利用者の様子を書いた家族への手紙を始め、写真や行事の案内書、個人用に預かっている現金の出納状況も毎月報告している。</p>		<p>家族への報告として入居者の日常ありふれた生活の様子を「グループホーム便り」のようなものにして発行されることも期待したい。その中で行事への積極的な家族参加も呼びかけてほしい。</p>
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談、苦情申し立ては行政機関への申し立て窓口も含めて家族に通知しており、ホームには意見箱も設置している。家族の面会時や行事等での交流機会でも意見を聞きだし、サービス改善に生かすことに取り組んでいる。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>常に職員が仕事に誇りとやりがいを持てるよう各種行事のリーダー等責任あることを任せ意欲向上に取り組んでいる。職員交代が止むを得ない場合は引継ぎ期間を充分取るよう配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の経験、能力に応じた外部研修受講や資格取得を年間を通じた育成計画の中で推進している。又併設のデイサービス、ショートステイ職員も含めた施設内研修も実施し、職員のスキルアップに取り組んでいる。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>東近江事業者協議会グループホーム部会への参加や近隣グループホームへの職員実習派遣、法人の系列施設との情報交換等を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にケアマネージャーが利用予定者家庭を訪問し生活歴のアセスメントを行なうと共に、事前施設見学により本人がホーム生活に馴染めるよう、又家族との相談時間も充分持つようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	当ホームの利用者は全体として要介護度が低く「生きがい」を持って「する」側としての支援に重点を置いている。利用者の自主性を尊重しつつ相手の立場に立った支えあいのケアを実践している。		利用者は人生の先輩であり生活の技を教えてもらう師であるという考え方に立って、より一層支えあいケアの質向上への努力をお願いしたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者からの聴取、家族の意見を元に本人の希望、意向の把握に努めている。意思表示が出来ない利用者があるが、所作や顔色からその人の想いを汲み取るよう努力している。		今後、利用者の要介護度が進み意思表示が困難な状態となった場合に於いても常にその人の立場に立って「何をしたいのか」を把握する努力を続けて行ってほしい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の状況や家族との話し合いによりケアマネージャーがケアプラン原案を作成、それを元に職員、看護師を交えた会議でプランが決定されている。また介護計画は家族に報告、承諾を得る手続きも取っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に変化が見られた場合は、都度検討会を開き現状に適した介護計画に変更すると共に、3ヶ月に1度は介護計画の点検を行ない、結果は介護計画書に反映されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームは医療体制加算対象事業所になっていないが、同一建物内にあるショートステイ、デイサービスに在籍する看護師の支援を得られる体制となっている。外部医療機関受診時の送迎要望にも応じて可能な支援を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医利用を基本に置きつつ施設提携医による月2回の往診及び併設施設に配置されている看護師(3名在籍)によって対応している。		医療機関への受診の支援は付き添い・送迎を含めて施設で対応しているが、重要事項説明書の記載が「原則家族同伴」となっており事実と異なっているので修正してほしい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態が悪化した場合の対応方針はホームとして共有しているが、現状では利用者が元気でまだまだターミナルケアについての方針は出していない。	○	将来について本人や家族の不安、心配もあると考えられる。施設としてターミナルケアまで実施の方向で検討とのことであるが、早めに具体的方針を出して早期から繰り返し話し合い、考え方を共有するよう取り組んでほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の守秘義務は、利用契約書に明記し利用者、家族に通知すると共に、個人に関する記録は事務室で充分注意し保管管理している。利用者に対しては常にその人のプライドを尊重した言葉かけに気を付けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴を始めとして役割や行事参加等も特に強制することなくあくまで本人の希望、本人のペースを中心に考え支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備、配膳、後片付け等に利用者が参加している。職員は通常弁当を持参しているが、鍋物や誕生会等では同じ食事を一緒に楽しんでいる。		食事は利用者にとって大きな楽しみごとであり利用者との信頼関係を強化するためにも職員が同じものを食べる機会を出来るだけ増やすよう取り組んでほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則昼食後～夕食前としているが特にこだわることなく本人の希望に沿った支援を行っている。入浴を拒む人についても声かけにより週2回程度の入浴を実現している。		浴槽の淵の幅が広く、また高くなっているのでしっかりサポートしていただきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、洗濯物の片付け等の役割参加、大正琴を演奏しての楽しみ、テレビ鑑賞等利用者の自由な時間が流れている。役割を終えた人へは、必ず職員が感謝の言葉かけを行なっている。		参加に消極的な人についても本人の望む役割は何か、楽しみは何かを生活歴や日頃の観察から把握しその人の力を引き出す工夫を今後とも継続して行ってほしい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	良い季節には近隣の散歩、農園の作業、送迎車での遠出等を積極的に行っている。又利用者の居室にはテラス窓があり自由に庭に出て外の空気を吸い日向ぼっこもしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ショートステイ、デイサービス共用の表玄関は施錠されているが、グループホームから庭への出口、居室は施錠していない。両施設への行き来も自由になっている。		日中表玄関も施錠せずに済むよう地域住民の協力を得るべく協議中とのこと、実現を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に2回地元消防署の協力を得て防災訓練を実施している。昨年11月には、消防車動員の本格的な模擬避難訓練を実施した。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立ごとに食材納入業者からカロリー計算書が提出されており施設内には栄養士も在籍、必要な指導を受けることが出来る。なお食事の摂取量等はチェック表で把握しているが、水分摂取量についてはチェックを行っていない。	○	特に夏場の水分摂取は大切であり、水分摂取チェック表により利用者ごとに摂取量を把握し管理されることを望みたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の天井からは自然採光も取り入れ、機能的、衛生的な共用空間となっている。居間には雛飾りが飾られ利用者の趣味の作品や行事の写真、手作りの日めくりカレンダーもあって居心地良く過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、洗面所付きの居室は広さも充分ありテラス窓から庭に出られるようになっており申し分ないが、馴染みの品、趣味の品の持込は利用者によって差がある。	○	使い慣れた馴染みの品や、趣味の品の持込の少ない利用者については再度家族に協力を呼びかけ、利用者の心が落ち着く居室作りに今後とも取り組んでほしい。